

一〇一三年九月八日

と行きてはまた戻りくる蛻蝶

あるなしの風におしやべり秋桜

一〇一三年九月七日

芋の葉の裏を表へ風あそぶ

虫の音に落ちゆく夢の世界かな

一〇一三年九月六日

解体の瓦礫の山に残る虫

八千草を籬としたる地鎮祭

手を添へて水琴窟の秋を聞く

一〇一三年九月五日

秋晴や指笛高く犬を呼ぶ

言はでもの愚痴口に出て秋憂ふ

中庭に臥龍松見ゆ夏座敷

秋暑し買ひ忘れして戻る道

好きだった秋草手向く母墓前

県境と記す標や吾亦紅

一〇一三年九月四日

ピカピカにキッチン磨き涼あらた

かなかなや友の墓石の真新し

日曆の瘦せしと思ふ九月かな

一〇一三年九月三日

猫じやらしホームの高さ越えんとす

乱れ萩風にほぐるる小径かな

一〇一三年九月二日

おはぐろのジプシーセルは獣道

笊に盛る獅子唐しの字つの字かな

野路ゆけば此処よ此処よと虫の声

群れなして旋回したる鯉涼し

澄子

澄子

澄子

もとこ

もとこ

もとこ

たか子

たか子

たか子

せいじ

せいじ

せいじ

きよえ

きよえ

きよえ

あひる

あひる

あひる

あひる

やよい

かなかなや友の墓石の真新し

日曆の瘦せしと思ふ九月かな

明日香

明日香

明日香

一〇一三年九月三日

猫じやらしホームの高さ越えんとす

乱れ萩風にほぐるる小径かな

一〇一三年九月二日

おはぐろのジプシーセルは獣道

笊に盛る獅子唐しの字つの字かな

野路ゆけば此処よ此処よと虫の声

群れなして旋回したる鯉涼し

澄子

澄子

澄子

もとこ

もとこ

もとこ

たか子

たか子

たか子

せいじ

せいじ

せいじ

きよえ

きよえ

きよえ

やよい

かなかなや友の墓石の真新し

日曆の瘦せしと思ふ九月かな

明日香

明日香

明日香

一〇一三年九月三日

猫じやらしホームの高さ越えんとす

乱れ萩風にほぐるる小径かな

一〇一三年九月二日

おはぐろのジプシーセルは獣道

笊に盛る獅子唐しの字つの字かな

野路ゆけば此処よ此処よと虫の声

群れなして旋回したる鯉涼し

澄子

澄子

澄子

もとこ

もとこ

もとこ

たか子

たか子

たか子

せいじ

せいじ

せいじ

きよえ

きよえ

きよえ

毎日句会みのる選・一〇一三年九月一〇日